



すずき きょうこ  
鈴木 匡子 教授

～ 高次機能障害学分野～

講義題目

脳とこころ

【略 歴】

- |   |   |
|---|---|
| 1984年 3月 山形大学医学部医学科卒業                               | 1994年10月 財団法人広南会広南病院                            |
| 1984年 6月 東北大学医学部附属病院研修医                             | 1995年 4月 東北大学医学部附属病院助手                          |
| 1986年 4月 豪州メルボルン大学神経心理学教室・オースチン病院にて研修<br>(～1988年3月) | 1997年 7月 東北大学医学部附属病院講師                          |
| 1988年 4月 東北大学医学部附属病院医員                              | 2007年 4月 山形大学大学院医学系研究科教授<br>臨床的機能再生部門高次脳機能障害学講座 |
| 1989年10月 国立療養所岩手病院                                  | 2007年 4月 山形大学医学部附属病院高次脳機能科長 (兼務)                |
| 1990年 4月 東北大学医学部附属病院医員 (復職)                         | 2017年12月 東北大学大学院医学系研究科教授                        |
| 1991年 9月 東北大学大学院医学研究科博士号 (医学) 取得                    | 2025年 3月 退職                                     |

【研究業績等の紹介】

鈴木匡子教授は、神経変性疾患、てんかん、脳腫瘍などの診療に従事し、これらの患者を対象とした臨床研究を続けてきた。神経心理学的手法により高次脳機能障害の症候やその発症メカニズムを詳細に検討し、それに対応する脳部位を神経生理学的・神経放射線学的手法で明らかにした。特に、視空間認知の障害については、局所脳損傷、神経変性疾患、皮質電気刺激による知見を統合し、ヒトにおける質感、色、形態認知の神経メカニズムの一端の解明に寄与した。また、言語に関しては覚醒下手術における言語機能温存のための言語野マッピングの標準的手法を確立し、Awake Surgery ガイドライン作成に参画した。さらに、認知症性疾患における高次脳機能障害の症候と病巣・疾患の関係について研究し、認知症疾患診療ガイドライン作成委員としても活躍した。これらの活動を通して、東北大学病院にて専門的な診療を提供するとともに、200本を超える論文を発表した。

大学院の専門教育では、障害科学専攻において様々な背景をもつ大学院生の育成に努め、教室の卒業生は全国の大学・医療機関等で活躍している。また、Neuro Global 国際共同大学院プログラム教務委員として、神経科学について幅広い視野をもち、国際的に活躍できる人材の育成にも尽力した。学部教育では、神経ブロックの一端を担い、実地に即した高次脳機能障害や認知症診療の教育を行った。また、日本で唯一の高次脳機能障害専門の臨床教室として、日本神経学会等の教育講演

やハンズオンを通してこの分野の教育を牽引してきた。さらに、他大学からの内地留学生も積極的に受け入れ、高次脳機能障害に関する専門的教育を行い、その後の共同研究へと繋げた。

社会貢献としては、高次脳機能障害者の支援に長年従事し、高次脳機能障害者支援事業において多数の講演を行うとともに、国立障害者リハビリテーションセンターと連携して支援者養成のための教材開発を進めた。学会活動では、日本神経心理学会理事長（第38回会長）、日本神経精神医学会理事（第26回会長）、日本高次脳機能学会理事（第47回会長）、日本神経学会評議員（神経心理セクションチーフ、英文・和文学会誌編集委員、教育コンテンツ査読部会委員長等）、日本認知症学会評議員、日本内科学会評議員として活動するとともに、学会横断的に日本脳科学関連学会連合代表理事補佐、日本学術会議連携会員として、神経学・神経科学の発展のために尽力した。